

大山街道の宿場町・荏田宿で 地域とともに3世紀半 17代継いできた老舗呉服店

現金屋



県内外から
多くの祭り好きが来店



自家仕立てと中わたにもこだわるふとん



蔵から見つかった屏風絵

現金屋（横浜市青葉区荏田町、小泉弘社長、045・911・0008）は、東急田園都市線江田駅より約10分、国道246号を少し東に入った小さな商店街で、江戸時代中期から店を構えている。新しいお客様は「何で現金屋？」と不思議そうに尋ねて来られ、会話のよいきっかけになるとか。

荏田の地は、その昔、江戸から大山詣（現在の伊勢原市大山阿夫利神社）へ向かう最初の宿場町として、旅籠をはじめ薬屋、餅屋、油屋、籠屋など35軒ほどが軒を連ね賑わっていた。その中の1軒、質古着業が同社である。「質屋の名残を留める『現金屋』の屋号を引継いで17代目、先代の時代は品物がなく厳しいときが多々あったと思う」と社長は振り返る。宿通りの旧店舗脇にあった蔵から見つかった江戸時代の画家の作品も、

真贋にかかわらず今も大事に保存しているという。

明治、大正、昭和と着物を商っていたものの、平成に入ってから呉服業も厳しくなり昨春秋には店舗を二分割修繕し、60余年扱ってきた学校制服関連はメーカーに譲渡して、今は奥様と、法人や地域の皆様からご依頼いただく名入れ商品や祭り用品、自家製手作りふとんなどを販売している。時代が変わっても、同社こだわりのふとんは量産品とは一味違い、使う方に合わせた仕立てわた入りふとんは、中身の分かる安心感とぬくもりが体を包んでくれるような心地よい眠りを提供している。

使い捨てが当然、売るだけのお店ばかりの昨今、「直したいときや困ったとき、やはり責任のあるお店で購入してよかったと感じてほしい」と老舗を守っている。